



園長便り

セブンスデーアドベンチスト石川教会付属 石川三育保育園

夏も終わりの時期になりましたが、保護者の皆様にはお元気でお過ごしでしょうか？台風の影響で不安定な天候が続いていますが、自然災害で被害に合われた方々にはお見舞い申し上げたいと思います。

さて、夏といえば夏祭りですね。至るところで出店が出て賑わいます。そこには必ず金魚すくいがあります。それを見ながら思い出します。昔の話ですが、ある日家内があるお店のオープンということでヒヨコを2羽貰ってきました。裸電球を使ってヒヨコの飼育が始まりました。まだ子供のいない私たちには格好の親子ごっこでした。かわいいヒヨコもあっという間に成長し、当たり前ですが、立派な鶏になりました。家内が行くところどこにでも付いていきました。たとえば朝ゴミ出しに行くと2羽の鶏も付いていきました。そして餌の時間になると家内は彼らを名前呼びました。2羽ともすぐに駆けつけて餌を食べます。食べる姿はまるでペットです。幼い時からの教育は大事だと前回お話ししましたが、その通りです。

子供に基本的信頼があるかどうかによって成人したとき影響が大きいと言われています。子供が乳児期にどれだけの愛情を受けたかに比例します。基本的信頼とは母親と父親をとおして子供が人を信じる心を育てることです。さらに自分の親が親しい交わりをしている、あるいは信頼を寄せている人の手のなかで育てられていきます。まず、母親の役割は大きいです。次に父親、そして母親や父親が信頼している人、おじいさんやおばあさん、そしておじさん、おばさん、保育士と人を信じる和が広がっていきます。このような基本的信頼の上に子供の自律性が育ちます。

ペットを飼ったことのある人はお分かりと思いますが、大変なのはしつけです。動物をどうしつけるかは忍耐がいらいます。自分の子供であればなお大事です。しつけをする時大事なのは信頼関係がしっかりしているかどうかです。そして自律性を高めることです。自分を律することのできる子供を育てることです。親の愛情をたっぷり受けて育てている子供は自律性が強い子供で、しつけ易いです。しかし自律性が弱い子供はしつけ難いです。

保育士もそうですが子供達との信頼関係がないとしつけることが難しいです。どれだけ子供と信頼関係にあるかが問われています。子供に信じることの大切さを教えられます。

園長：富浜宗言

「家庭は子どもにとって世界中で最も魅力的な場所であり、母親の存在は最大の魅力であるべきである。子どもは敏感な愛の性質を持っている。たやすく喜ばせることもでき、不快にさせることもできる。母親は愛のこもったことばと行為とやさしいしつけをもって子どもを自分の心に結びつけることができる。」
エレン・ホワイト（宗教家、教育者）

